

# 宮城県理事を拝命して

応用地質（株） 東北支社長  
原田 益雄



## はじめに

平成 29 年 4 月から東北地質調査業協会の宮城県選出の理事を拝命しております。応用地質株式会社の原田です。

15 年ぶりの東北勤務になります。東日本大震災から 6 年以上がたったものの、被災地の復興は道半ばとあって「東北地方の復興と創生」に全力を尽くしたいと考えています。

また、これまで東日本大震災の復旧と復興に力を尽くされ、数々の功績を残された皆様方の一員として、「復興 2 年目」ともいわれる平成 29 年に宮城県理事に就任したことは、身の引き締まる思いです。お客様や住民の皆様の声を聞き、協会の方々ともよく話し合い、これまでの経験も生かして、東北地方の復興および創生に全力を尽くしく所存であります。

前任地の北海道や四国での協会理事の経験もありますので、協会員の皆様ともに本協会の発展および地質調査業が抱える諸問題を解決する取組に微力ながら貢献して参りたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

## 生立ち・業務経歴

私は昭和 31 年に東京都板橋区に生まれ、父親の仕事の関係で 10 歳の時に滋賀県草津市に転居し、その後、13 歳の時に千葉県流山市に転居し中学時代を過ごしました。昭和 47 年には千葉県内の工業高等専門学校土木工学科に入学し 5 年間の学生生活を終えて、卒業研究で関東ロームのシキソトロピーに関する実験をやっていたこともあり、昭和 52 年に応用地質調査事務所（現在の応用地質株式

会社）に入社しました。

入社後は東京事務所に配属され、その後新潟県や千葉県でも勤務し、18 年間技術業務に従事してきました。経験してきた技術業務は、東京事務所では調査試験課に配属され土質試験を中心に試験法や試験機の開発を担当しました。その後、新潟県の原子力発電所の設置許可申請に関わる地質調査、千葉市に転勤して幕張メッセ地区や利根川スーパー堤防の地盤改良工事の調査設計を担当してきました。

特に印象に残る仕事は、高規格堤防の調査・設計業務での経験です。はじめは河川堤防の盛土設計の業務でしたが、堤防幅の拡張に伴う付替え国道の設計や延長 200 m の農業用水の樋管設計などを並行して実施する業務を経験しました。1 つの設計業務の中で河川・道路・土地改良事業の設計を同時に実施した経験は唯一この業務のみでした。この業務を通じて技術的な成長とやり遂げたという達成感が得ることができました。

平成 7 年からは山形支店長として主にマネジメントに従事し、平成 12 に東北支社営業企画部長、平成 14 年に水戸支店長、平成 16 年に横浜支店長、平成 21 年に札幌支社長、平成 26 年に四国支社長を拝命し、平成 29 年からは現職である東北支社長として支社の経営に従事しています。

## マネージャーの信条

東北地方における当社を取り巻く社会や顧客の状況、職員や組織の特性などを勘案しつつ、経営方針に沿って効率的な

支社運営を行っていきたいと考えています。特に、国土交通省も積極的に取り組んでいます生産性の向上を図るための働き方改革については、我々が属しています建設関連業界でも、事業量の増加に伴い長時間労働が問題となっています。長時間労働の解消は業界共通の課題として、東北地方でも東北地質調査業協会をはじめ関係団体が協力して「一斉ノー残業デー活動」などの活動が広がりを見せています。当社は1件の業務を複数の職員が担当するチーム担当制を導入して個人への業務集中を防止し、水曜日、金曜日の「早帰りデー」を設けるなどの活動を続けてきた結果、職員の退社時間は年々改善されています。

経営要素には、「ビジョン」、「競争戦略」と「オペレーション」の3つがありますが、企業間で最も大きな差があるのが「オペレーション」であると言われていています。「オペレーション」とは「現場力」であり、これが強い企業は、競争戦略を実行する際に発生する様々な問題や障害について、現場職員が当事者として解決し、成果を生み出すことができると言われています。マネージャーとして、自立的に問題が解決できる組織をつくり、「現場力」を強くするために、「目標達成のPDCA サイクル」と同時に「問題解決のPDCA サイクル」、すなわち、問題を発見し、見せる化を図り、協力して問題を解決、さらに解決策の効果を確認するサイクルを回しながら、業績向上に努めていきたいと考えています。

また、今後の事業展開の方向性としては、当社の東北での市場は、前任地の四

国支社と同様に国土交通省、環境省や自治体が発注される地質調査、環境調査、地すべりなどの動態観測、土木設計が事業の中心ですが、今後は、国の方針にもあるように社会資本ストックの活用を進めるため、道路、斜面、トンネル、橋梁などの補修や更新に関する維持管理分野での事業の拡大を目指していきたいと考えています。また、近年頻発する豪雨災害に対応してダム運用方法の見直しが検討されています。その中で貯水池斜面の安定性に関する管理が課題となっており、この分野にも注目していきたいと考えています。

#### おわりに

私の好きな言葉は、「一隅を照らす、これ則ち国宝なり」という言葉です。これは、天台宗の開祖である最澄の言葉で「それぞれの立場で精一杯努力する人はみんな、何者にも代えがたい大事な国の宝だ」という意味です。

チームワークにより生産性の向上や課題解決を図るためには、個人の力量、チームメンバー各自のスキルアップが大変重要であると考えています。その意味で、私も協会の一員として、東北地質調査業協会および地質調査業の発展に、少しでもお役に立てる存在になれるように日々努力して参ります。今後とも皆様方のご指導とご鞭撻をいただきますようによろしくお願い申し上げます。